

事業所理念	子どもの幸せを第一に考え、興味や特性、発達段階、障害など、一人一人に合わせた療育をすすめていきます。こどもやご家族の気持ちを受け止め「困ったら相談できる」「困ったら助けてくれる」存在となり、ご家族と共に成長を促していきます。		
支援方針	① じょうぶな身体とはたらく手足を作る ② 食事、排泄、運動、睡眠などの生活リズムを整え、身辺自立や生きる力を高める。 ③ 遊びを通して、社会性や協調性を学ぶ。		
療育時間	9時00分から15時00分まで（延長療育は状況・相談に応じて）	送迎実施の有無	あり（※状況に応じて自宅・保育園等へ）
	支 援 内 容		
健康・生活	健康状態の維持や改善、生活習慣や生活リズムの形成、基本的な生活スキルの獲得の支援。 食事、排泄、睡眠、着脱、身の回りを清潔にすること等、基本的な生活習慣を身に付けられるようにスモールステップで支援を行う。 給食は園で手作りした給食を提供。食育を口腔内機能・感覚等に配慮しながら可能な限り個別に対応。		
運動・感覚	運動機能、バランス感覚、力の強弱、距離感、さまざまな体の感覚・感触に触れ、感覚の成長を支援。 滑り台・トランポリン・一本橋等、複数の運動遊びを通して、体の動かし方を学び運動の楽しさを感じると共に、運動能力の向上に繋げる。“操作性”“手指機能”等の成長を支援。 水・光・砂・泥んこ・粘土・絵の具・ボディペイント等の感触遊びを通して、さまざまな素材の感触やにおい、音などを感じ五感を育む。想像力や思考力を養う。		
認知・行動	認知の特性についての理解と対応、対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得、行動障害への予防及び対応を支援。 大小、数、重さ、空間、時間、文字等の概念の形成を図り、認知や行動に活用できるよう支援を行う（スケジュール説明時に日付・人数を確認等）。 記憶、弁別力、構成力を養う。 “着席”“よく見る”“少し苦手なことも頑張ってみる”等、課題に向く姿勢や力を養う。 状況の変化への対応（適応の難しさ等への支援）。		
言語・コミュニケーション	コミュニケーションの基礎的能力の向上、言語の受容と表出、言語の形成と活用、状況に応じたコミュニケーションの支援。 “要求”“報告”“聴く”“模倣”“観察する”など、自分も周囲の人も大切にコミュニケーションを学ぶ。 言葉だけでなく指差しや身振り、ジェスチャーやサインや手話、絵カード等のコミュニケーション手段を選択・活用し、こどもに合わせた視覚的な支援を行う。		
人間関係・社会性	愛着形成と安定、遊びを通じた社会性の発達、自己の理解と行動の調整、仲間づくりと集団への参加の支援。 環境に対する安心感、人に対する信頼感、自分に対する自己肯定感を育む。“模倣”“ごっこ遊び”“協同遊び（ルール）”などを通して社会性の発達を支援する。 “待つ”“譲る”など気持ちをコントロールする力を育む。 思いが通らない等で気持ちが昂った状態の時は、ペースに合わせて関わり、気持ちの発散や切り替えの方法を考える。		
家族支援	子育てに関する困りごとに対する相談援助。自宅と園が同じ方向性で支援していけるような話し合いの場。こどもの成長の共感・確認。 家族に対する支援場面を通じた学びの機会の提供。 ・家族（母子）通園 ・家庭訪問 ・個人面談 ・発達検査の同行	移行支援	ライフステージの切り替えを見据えた将来的な移行に向けた準備。 同年代の子どもをはじめとした地域における仲間づくり。 ・交流保育・地域交流・移行先（保育園／幼稚園／学校）との情報の共有等。
地域支援・地域連携	・地域の関係者／関係機関との連携（保健・医療・福祉・教育） ・相談支援事業所との生活支援や発達支援における連携	職員の質の向上	・園外の研修等への参加 ・園内研修の実施 ・市内保育園・児童発達支援施設との研修・相互実習 ・市内保育園による講演会・研修会への派遣
主な行事	・プール遊び ・夏まつり ・運動会 ・親子遠足 ・クリスマス会 ・豆まき ・雛祭り ・七夕コンサート ・卒園式 ・誕生会（毎月） ・交流保育 ・芋掘り ・健康診断 ・歯科衛生指導 ・防災訓練 ・家庭訪問 ・個人面談 ・見学（随時）		